



Taka Ishii Gallery

Photography / Film

5-17-1 2F Roppongi Minato-ku Tokyo #106-0032, Japan

tel 03 5575 5004

fax 03 5575 5016

web www.takaishiigallery.com

email tigpf@takaishiigallery.com

渡辺 克巳

会期：2014年8月23日（土） - 9月13日（土）

会場：タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム（東京・六本木 AXIS ビル）

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルムは、2014年8月23日（土）から9月13日（土）まで、渡辺克巳展を開催いたします。本展では、長年に渡って渡辺克巳が撮り続けた新宿の作品シリーズから14点の作品を展示いたします。

渡辺克巳は、「流しの写真屋」として1960年代の後半から70年代の初頭まで、新宿を舞台に水商売の女性やゲイボーイ、ヤクザなど、そこを行き交い、そこで商売をする様々な人々を写真に収めてきました。「流しの写真屋」とは、カメラを片手に新宿を歩き、頼まれれば被写体の姿をカメラに収め、現像・プリントを行って翌日には写真を届けるということを稼業にする、当時においても特異な存在だったと言えます。渡辺によって撮影された人々は、新宿を舞台に生きる各々の姿を、自信を持って知らしめるように、様々なポーズを取ってカメラの前に立っています。なかには、それらの写真を郷里に送り、自身の近況報告にかえるということもあったようで、被写体たちにとっても、貴重な写真であったことをうかがい知ることができます。

70年代以降、安価な自動露出カメラが普及しはじめると、より多くの人々がカメラを持つようになり、仕事として「流しの写真屋」を続けていくことは困難になります。しかし、それ以降も渡辺は、新宿という街、そこに生きる人々を被写体に、膨大な数の作品を制作し続けました。人々のポートレートの他にも、コマ劇場前の騒乱から路地裏で遊ぶ子供たち、空き缶が山のように集積する場所まで、新宿中をくまなく捉え続ける写真家は、移りゆく新宿の姿を記録し続ける観察者として、その街に寄り添い続けてきました。

渡辺克巳は、1941年岩手県盛岡市生まれ（2006年逝去）。定時制だった岩手県立盛岡第一高等学校に通う傍ら、毎日新聞盛岡支局にて事務補助員を務め、その間に写真の魅力を知ります。高校を卒業して上京した後は、東條会館写真部に勤務し、スタジオ撮影の技術を身に付けました。その後、1965年から新宿で手札1組200円のポートレート写真の請負を稼業にする「流しの写真屋」を始め、多くの人々、場所を撮影し続けました。1973年には写真集『新宿群盗伝 66/73』を上梓。74年には東京国立近代美術館で開催された「十五人の写真家」展にも出展し、作品への評価も高まります。「流しの写真屋」を辞めて以降は、焼き芋屋や写真館経営なども経験しながら、フリーランスの写真家へと転身。国内外を問わず、各地に撮影へ出掛けますが、その間も一貫して新宿を撮影し続けています。

渡辺克巳のライフワークとなった新宿の初期作品群を、この機会に是非ご高覧ください。

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願い致します。掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム
展覧会・プレス担当：菊竹寛

〒106-0032 東京都港区六本木 5-17-1 AXIS ビル 2F tel: 03-5575-5004 fax: 03-5575-5016

e-mail: tigpf@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com

営業時間：11:00-19:00 定休日：日・月・祝日



渡辺 克巳

Untitled、1966

ゼラチン・シルバー・プリント

53.5 x 35.5cm